

事業所における自己評価結果（公表）

令和6年度

	チェック項目	はい	いいえ		課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
①	利用定員が指導訓練等のスペースとの関係で適切である	8 88.9%	1 11.1%		・ 広すぎる場合はパーティションで仕切ったり、活動ごとに分けて使用した ・ 間仕切りがあるが上手く作用せず広すぎる。活動によっては環境が整わない所がある
②	職員の配置数は適切である	9 100%			
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9 100%			・ トイレ、手洗いなどでは視覚で伝わりやすいように絵カードなどを貼っている ・ 一日の流れをカードで示している（絵カードが有効な方には） ・ 活動を分かりやすく視覚で伝えている
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9 100%			・ 子どもの登所前、降所後に掃除をしている ・ 活動によってホールが広すぎる時があるので、静養室等を使いながら集中できる環境を作っている
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画している	8 88.9%	1 11.1%		・ ウェブマップを個人的に作成しているが全体周知のしくみが不完全
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	9 100%			
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5 55.6%	3 33.3%	無回答 1 11.1%	・ 自己評価、保護者向け評価は行っているがホームページ等の公開はしていない ・ 今後に向けて準備中
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5 55.6%	4 44.4%		・ 今後に向けて準備中
⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9 100%			・ 法人研修、事業所内研修を定期的に行っている ・ 正規非正規の職員に関わらず研修の機会をもっと知らせてほしい

	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9 100%			・利用開始前にアセスメントを行ったり、定期的に個人面談を行い、支援計画を作成している
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3 33.4%	4 44.4%	無回答 2 22.2%	・アセスメントシートを使用している
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9 100%			・項目ごとに分かりやすく支援内容が設定されている
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9 100%			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9 100%			・大まかな活動内容は前もって決めているが、人数、天気、メンバーが当日変更になる場合もあり、朝の打ち合わせで相談しながらチームでまとめている
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9 100%			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9 100%			
	⑰	支援開始前には必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9 100%			・毎朝、支援内容や職員配置等の確認をしている
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	9 100%			・記録表を作成し、振り返りを行っている ・ヒヤリハットのミーティングの中で振り返りを行っている ・支援の振り返りが出来ている日とできていない日がある
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9 100%			・その日に行なった支援や子どもの姿を記録し、検証している

	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9 100%			・定期的に面談、モニタリングを行い見直しをしている
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい物が参画している	9 100%			
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した胃炎を行っている	8 88.9%		無回答1 11.1%	・保育園、幼稚園、相談支援事業所等と連携をとっている ・連絡会に参加し、情報共有をしている ・まだ十分ではないように思う
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8 88.9%		無回答1 11.1%	・他施設との連携を行っている ・医療的ケア児の登所がまだ1人なのでこれからの課題ではないかと思う
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7 77.8%	2 22.2%		
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9 100%			・電話でのやりとりを幼稚園や保育園と行っている ・卒園児が昨年初めてだったので、これからもっと支援が深まると思う
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9 100%			・就学先との情報共有を行っている ・必要に応じて就学支援シートなどにコメント、支援を記入している
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8 88.9%	1 11.1%		・連絡会に2カ月に1度参加し、情報共有や研修を受けている
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会がある	9 100%			・同法人の年長児と年数回交流を行っている ・保育園の子どもたちと野菜の苗植えやさつま芋掘りを行い、交流を図っている ・同じ法人内の保育園児との交流が年に2回設けられている ・同じ法人の保育園5歳との交流は毎年定期的に行っている ・同じ小平市の子ども達との交流もしたい
	㉙	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子ども子育て会議等へ積極的に参加している	8 88.9%		無回答1 11.1%	

③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9 100%			・送迎時に子どもの姿や状況を伝え合うようにしている
③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の支援を行っている	6 66.7%	2 22.2%	無回答1 11.1%	・保護者の方の思いに寄り添いながら一緒に子どもの成長を見ていけるよう努めている ・今後行う予定 ・個別に支援相談を行っているが家族支援プログラムとして支援できているのかは分からない
③⑫	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9 100%			・利用開始前に一緒に確認している
③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9 100%			・支援計画を確認していただき署名、捺印をしてもらっている
③⑭	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9 100%			・父母会はないが、保護者間で交流が持てるように、行事や相談会を行なっている
③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8 88.9%		無回答1 11.1%	・親子参加の行事を行い、親同士の交流の機会を作っている ・父母会や保護者会はないが、保護者同士の交流を深める場を作っている ・父母会活動はまだないが、施設が仲立ちして相互交流が出来るような親子行事を行っていると思う
③⑯	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備すると共に、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9 100%			
③⑰	定期的に会報等を発行し、活動状況や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9 100%			・コドモンを利用したり、手紙等で連絡している
③⑱	個人情報の取り扱いに十分注意している	9 100%			
③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9 100%			

	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4 44.5%	3 33.3%	無回答 2 22.2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント（みんつく）等に参加している</li> <li>・ 地域が開催する催しにワークショップ等で参加している</li> <li>・ 今後計画予定</li> <li>・ これからの課題と思っている</li> </ul>
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9 100%			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マニュアルの作成、ロールプレイングの研修を行っている</li> <li>・ 研修を行っている</li> </ul>
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9 100%			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月行っている</li> </ul>
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	9 100%			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者から丁寧に話を聞き、指示書、処方箋をもらっている</li> <li>・ 予防接種の状況は看護師が把握しているが療育に必要なてんかん、けいれんなどの情報については周知している</li> </ul>
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9 100%			
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9 100%			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日その日のヒヤリハットを出し合い、対策を共有している</li> </ul>
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9 100%			
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5 55.6%	4 44.4%		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体拘束を行う状況になる要因がない</li> <li>・ 該当される方がいない</li> <li>・ 対象児がいない</li> <li>・ 組織的には研修等で決定しているが計画には記載していない</li> </ul>